

平成 24 年 10 月 25 日

各 位

会 社 名 フューチャーアーキテクト株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証第一部)
問合せ先 執行役員 中島 由彦
(TEL (03) 5740 - 5724)

平成 24 年 12 月期第 3 四半期連結業績（累計）のお知らせ

1. 平成 24 年 12 月期第 3 四半期連結業績（累計）について：

当社グループの平成24年12月期第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日～平成24年9月30日）は、**連結売上高は6,151百万円**（前年同期比8.0%増）、**同営業利益は609百万円**（前年同期比0.8%増）、**同経常利益は603百万円**（前年同期比1.1%減）、**同四半期純利益は337百万円**（前年同期比5.8%増）となり、前年同期と同水準となりました。しかし、第3四半期累計では、第1四半期（平成24年1月1日～平成24年3月31日）、第2四半期（平成24年4月1日～平成24年6月30日）において大規模プロジェクトが完了し、新規プロジェクトへの移行時期だったため、上半期の落ち込みをカバーするには至りませんでした。

その結果、当社グループの平成24年12月期第3四半期累計期間（平成24年1月1日～平成24年9月30日）の**連結売上高は17,277百万円**（前年同期比1.1%減）、**同営業利益は1,334百万円**（同40.4%減）、**同経常利益は1,407百万円**（同39.4%減）、**同四半期純利益は801百万円**（同42.4%減）となりました。

各事業分野の特記事項は次の通りです。なお、文中のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

I Tコンサルティング事業は、業界再編に伴うシステム統合、製造業向けの大規模開発、小売業向けソリューションを利用した開発、イーコマースのインフラ基盤の構築などに加え、地方銀行・証券会社・FX取引会社など金融セクターの新規の顧客の売上が増加しました。

さらには、新たな成長戦略として推進している金融クラウド、付加価値の高いアウトソーシングサービス、グローバルERP案件などの新たなサービス分野では、上記案件を含めて

成果が出始めました。他方、東南アジアでの事業展開やヘルスケア分野などの新規事業においては、コストが先行している状況であるものの、徐々に顧客の獲得が進んできております。以上の結果、売上高は11,042百万円（前年同期比0.4%減）、営業利益は1,294百万円（前年同期比36.4%減）となりました。

パッケージ&サービス事業は、株式会社アセンディアにおいては、好調な受注の獲得に支えられたことに加え、公共関連の案件においてプロジェクトが順調に進捗したことにより、売上・利益とも堅調に推移しました。Future One 株式会社においては、特に第1四半期において、一部のプロジェクトで採算が悪化したものの、第2四半期に引き続き、当四半期も業績は回復傾向であります。以上の結果、売上高は3,148百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益は116百万円（前年同期比15.5%減）となりました。

企業活性化事業は、食品スーパーを営む株式会社魚栄商店において、個別の店舗のニーズに合わせた商品の売場面積拡大やお盆商戦への積極的な取り組みなどを行うとともに、引き続きITを活用して安定した粗利率の確保に努めましたが、夏場の水道光熱費等の販売管理費の増加もあり、売上高は3,375百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益は38百万円（前年同期比31.9%減）となりました。

2. 今後の見通しについて：

ITコンサルティング事業については、大規模プロジェクトの一つが一段落したことにより、第1四半期において売上が減少したものの、第2四半期以降、既存顧客のみならず、新規の顧客からのプロジェクトを受注することで売上が増加してきております。今後におきましても、当社がこれまで積み上げてきた実績を活かし、大規模システムのダウンサイジングや経営情報のリアルタイム化によって、ITコストの大幅な削減と経営スピードの向上というダブルの価値を顧客に提供していくことで、業界再編やグローバル化など顧客の様々な経営改革のニーズに貢献してまいります。さらに、第3四半期までに既に複数の顧客を獲得してきた、金融クラウド、VAO（付加価値の高いアウトソーシングサービス）、グローバルERPといった新規サービスを引き続き推進してまいります。

東南アジアにおいては、シンガポールの子会社についてグローバルなERP企業との親密な関係をさらに深めるとともに、そのシンガポール子会社の営業力・コンサルティング力を、マレーシア子会社の開発能力とを有機的に結合させることで、現地の大企業への受注活動を強化してまいります。

パッケージ&サービス事業は、F u t u r e O n e 株式会社においては、当社のプロジェクトの管理に使用している各種ツールの利用を開始したことにより、プロジェクト毎の利益管理が改善されておりますが、今後はこれを活かしてプロジェクト運営の効率化と原価率の低減を図ってまいります。さらにバージョンアップした既存製品を投入し、中堅・中小企業からの受注の拡大を図ってまいります。また、株式会社アセンディアにおいては、当社との連携強化・ノウハウ共有によって、公共関連のビジネスや市場ニーズの高いニアショアビジネス（国内の地方拠点での運用保守・開発等）の拡大をさらに進めてまいります。

企業活性化事業は、株式会社魚栄商店において、引き続き物流の効率化、販売促進費の見直しによるコスト削減、および自社 I T システムの再構築や I T を利用した売上データ分析による販売戦略の見直しを進めてまいります。

以 上

●本件に関するお問い合わせ先：

フューチャーアーキテクト株式会社 IR 担当 池内

IR 直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：ir@future.co.jp